

身近な原料を使った 肥料の利用事例



レタスのほ場

【農業生産法人株式会社マルヨシ
ファーム 長嶺 久雄 さん】
当社では、肥料を使ってレタスや
キャベツ等を栽培し、主に学校給食の
食材として出荷しています。汚泥肥料
は他の堆肥と変わりなく使うことがで
き、堆肥と比べて臭いも抑えられてい
るため使いやすいです。また、農作物
の生育状態については、化学肥料と変
わりありませんが、汚泥肥料を使った
方が力強く育つ印象があります。実際

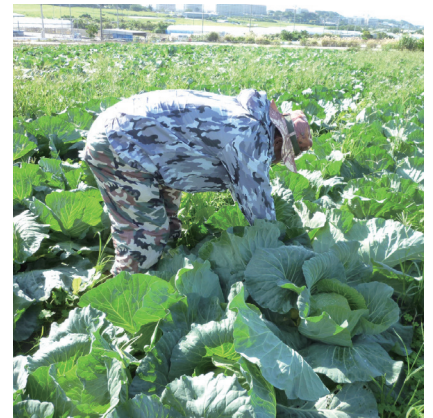
昨年（※）の群星9・10月号では、
下水汚泥やし尿汚泥、食品残さ等の身
近な原料から作られる「汚泥肥料」に
ついて解説し、このうち食品工場由来
の食品残さを原料として汚泥発酵肥料
を生産している大城有機肥料をご紹介
しました。
今回は、この汚泥発酵肥料（「汚泥
肥料」）を利用して、レタスやピーマ
ン等を生産している農業生産者へ、肥
料の使用状況などをお聞きしたのでご
紹介します。



力強く育ったキャベツ

【ピーマン農家 玉城 永吉 さん】
過去には、塩類障害が頻繁に生じて
いましたが、使用する肥料を汚泥肥料
に変えてからは解消され、立派に育つ
ようになりました。取引先からは「お
宅のピーマンは毎年質が高いので助

に、12月頃に収穫したレタスやキャベ
ツも、取引先に喜ばれるほど立派なも
のとなりました。皆様にも、大きくみ
ずみずしく育った農作物を是非一度食
べていただきたいです。



キャベツを収穫する長嶺氏



収穫直前のピーマン

かっている。」との評価をいただい
ております。

また、使用している汚泥肥料には木
材チップも含まれています。保水力が
高いため、散水の回数が少なくて済
みます。さらに、ほ場の通路に敷くこ
とで作物の毛根を保護するとともに、
雑草を抑制する役割も果たしてくれ
ます。

このように、身近にある原料が汚泥
肥料として利用され、農作物が美味
しく育っていることを知っていただ
ければと思います。

引き続き当局では、「汚泥肥料」に
対する農業者や消費者のイメージ改
善、未利用資源の地域への循環のPR
など、地域の理解の促進に向けた情
報発信に取り組んでまいります。

※群星9・10月号の記事は
こちらからご覧いただけます。



お問合せ先

農林水産部 消費・安全課

☎098-866-1672